

挑む!

絵本作家

みつおか あやね
三岡 有矢音さん(25)

映像組み合わせ 物語の世界へ



1992年、兵庫県西宮市生まれ。梅花女子大こども学科で学ぶ。2015年に「あたらしい創作絵本大賞」で大賞受賞。各地で展示会を開いている。

主人公はキリンの子。道で出会ったシマウマに「きみの模様ええなあ」と話しかけ、同じ模様にしてもらう。次々と動物たちと体の一部を交換し、ついにほとんど姿になって……。

12月に行ける絵本は関西弁も交え、読み手の想像を飛び越えていく。今回は絵本と映像技術を組み合わせた試みも。専用のプロジェクターで絵本の周りに別の映像を加え、映し出された動物が動き回るような仕掛けだ。産学官の交流の場を提供する「ナレッジキャ

ピタル」(大阪市)や、神戸市の映像会社の協力を得て、催しで体験できるようにする。「絵本になじみがなかった人にも作品に触れてもらいたい」

昔から絵を描いたり物語を考えたりすることが好きだった。高校時代には演劇の脚本を手がけ、大学は児童文学や絵本を学べるコースを選んだ。卒業を控えて就職するかどうか迷ったが、

「絵本で食べていきたい」と決めた。すでに出版した作品もあり、ポラノドのコンクールで今年、優秀賞に輝くなど海外でも評価された。

伝えたいのは、絵本にありがちな教訓やメッセージではない。「しんどいとき、『あなたはひとりじゃないよ』と言われるより、『プタと一緒に歩いていたら』と考えた方が楽しい」。突拍子もない発想が、創作の原動力だ。

文・写真 新宅あゆみ

記者から

シュールな絵とくすっと笑えるストーリーが持ち味。多くの人を三岡ワールドに引き込んで。